ORIGINAL EROTIC FANTASY COMIC

THE ROVER TOWER

さまよえる塔の丸呑ミミック



異種姦 | 孕ませ | 丸呑み | 触手 | 膨乳 | 斬首掲

A MONSTER "MIMIC" THAT MIMICS TREASURE CHESTS. IS IT POSSIBLE TO GETTREASURE, OR...?

OVER 18 ONLY
らばた工房

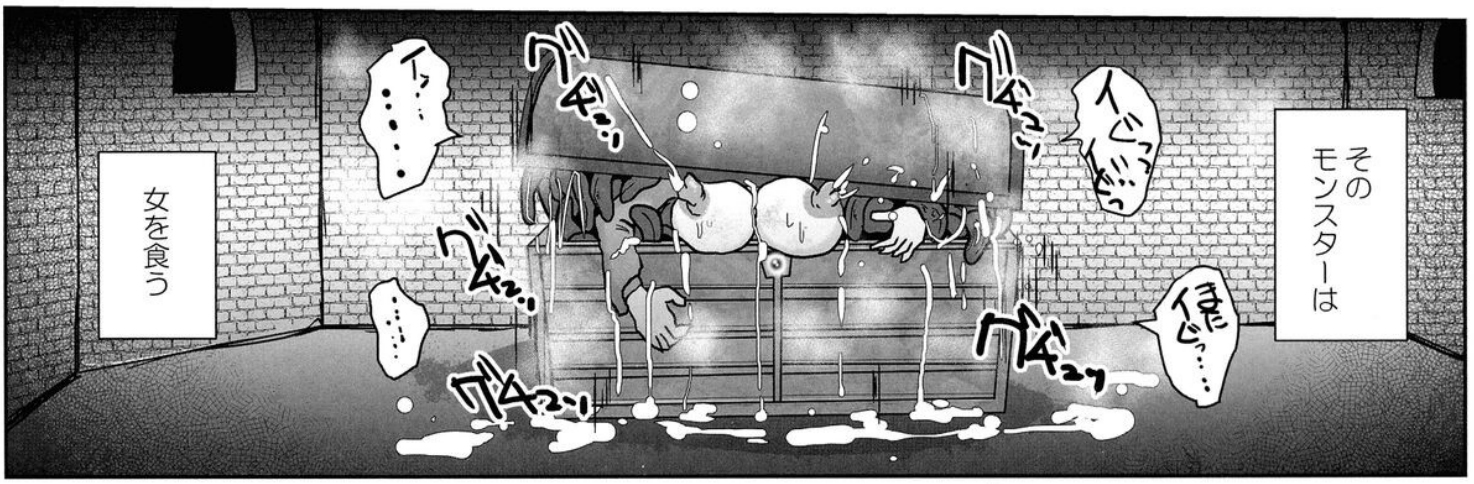
らばた工房
告知用
Twetterです

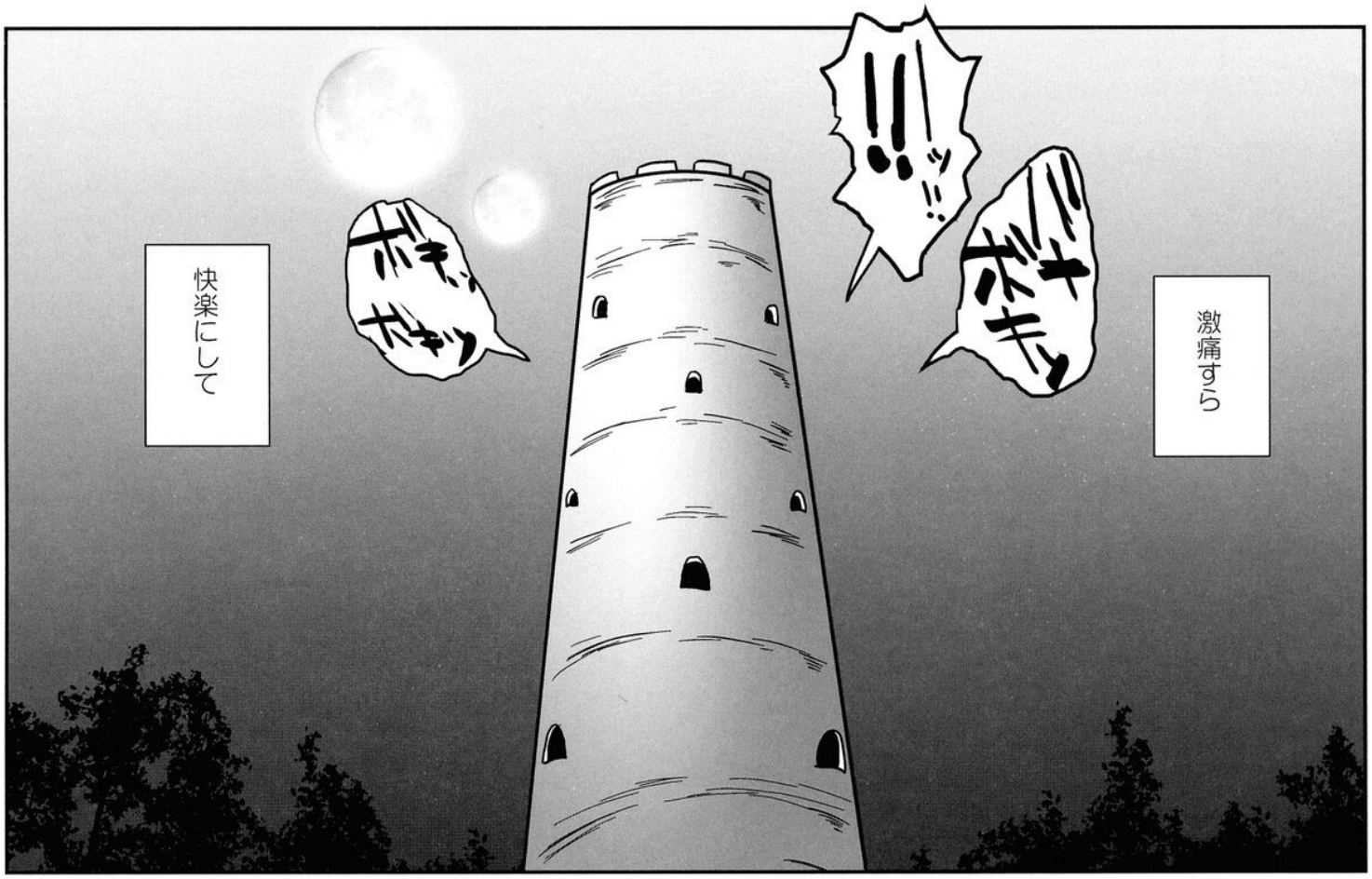


らばた工房


はぁはぁ
あはぁ……気持ちイイよぉ
ブブッ
ブブッ
イったらダメ……
イったらダメなのに
イきそう……
グチュッ
グチュッ
ナナミ(魔法使い)
あっ!!
イクッイグっ
ブボブボブボブボブボ


ゴッ
ゴッ
スブッ
スブッ
スブッ
スブッ
スブッ
スブッ
スブッ
スブッ
否まんちゃう
否ぼぉぉぉぉぉ


そのモンスターは
女を食う
グチュッ
グチュッ
グチュッ
グチュッ
グチュッ
イ…
イ…
イ…
イ…


激痛すら
快楽にして
!!
ッ!!
ボキッ
ボキッ
ボキッ



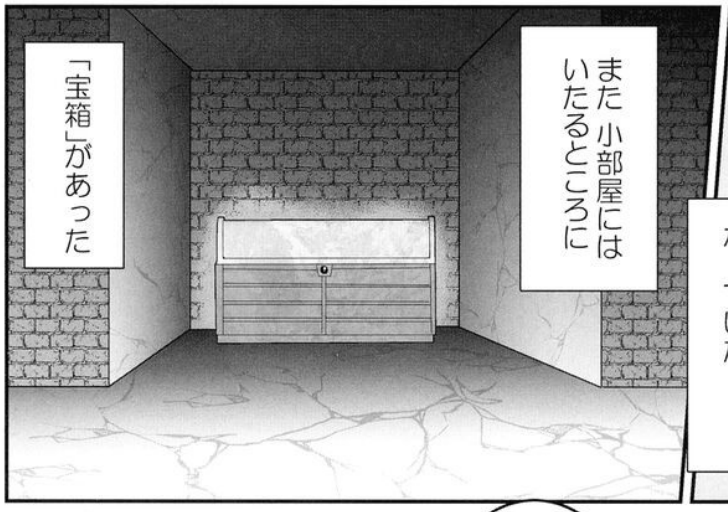
＊「集合知（デラ・コンターロ）」：多くの冒険者の知識が反映される情報端末

ボルックは この得体のしれない塔に入ることに反対をしようとした

しかし 今日のアウラはいつもとどこか違うように見えた……

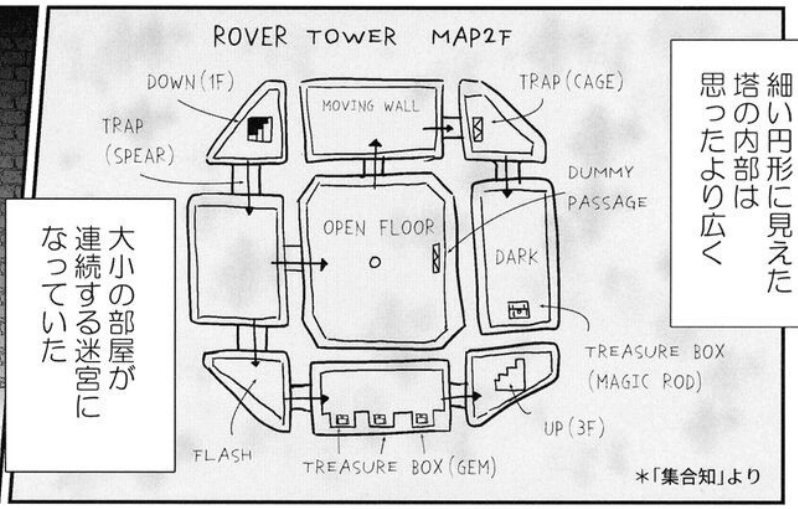
ボルックの直感が「アウラと離れるな」と言っているようで

黙ってついていくことにした



また 小部屋にはいたるところに

「宝箱」があった



細い円形に見えた塔の内部は思ったより広く

大小の部屋が連続する迷宮になっていた

*「集合知」より



だから特にソロの魔法使いにとっては

夢の稼ぎ場所

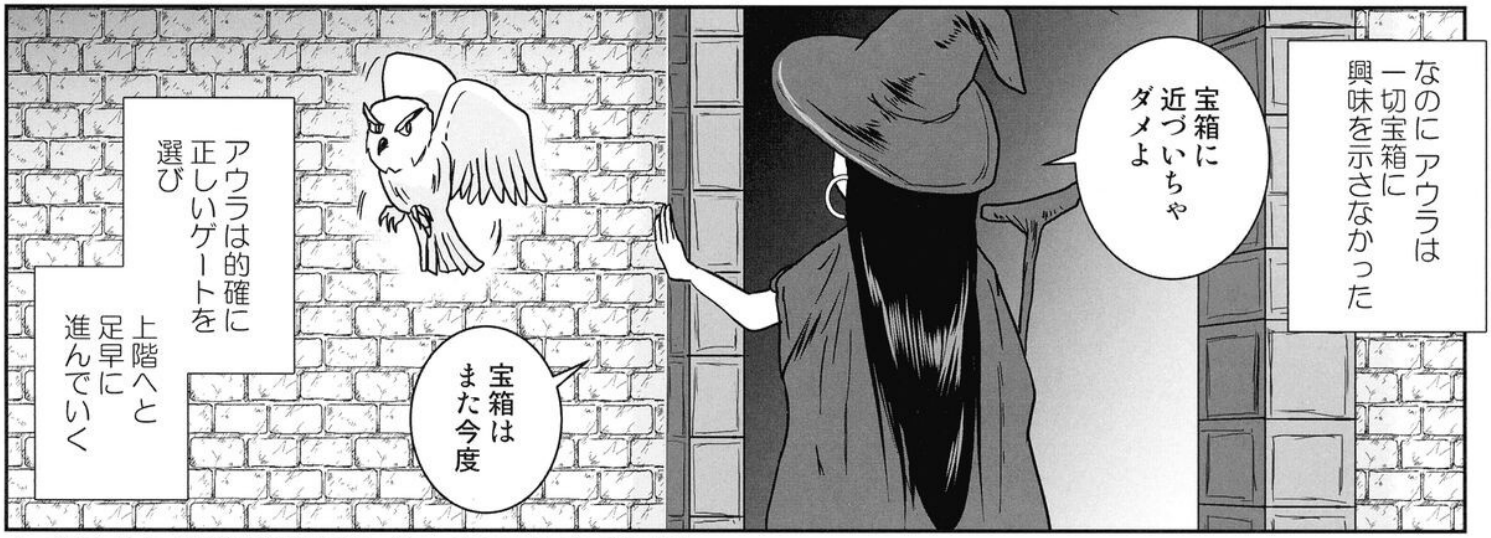
一獲千金



この塔の中は貴重なアイテムだらけなの

「狩」に行く魔法使いは

モンスターを魔法で仕留めるから「ドロップ」が手に入らないでしょ



なのにアウラは一切宝箱に興味を示さなかった

宝箱に近づいちゃダメよ

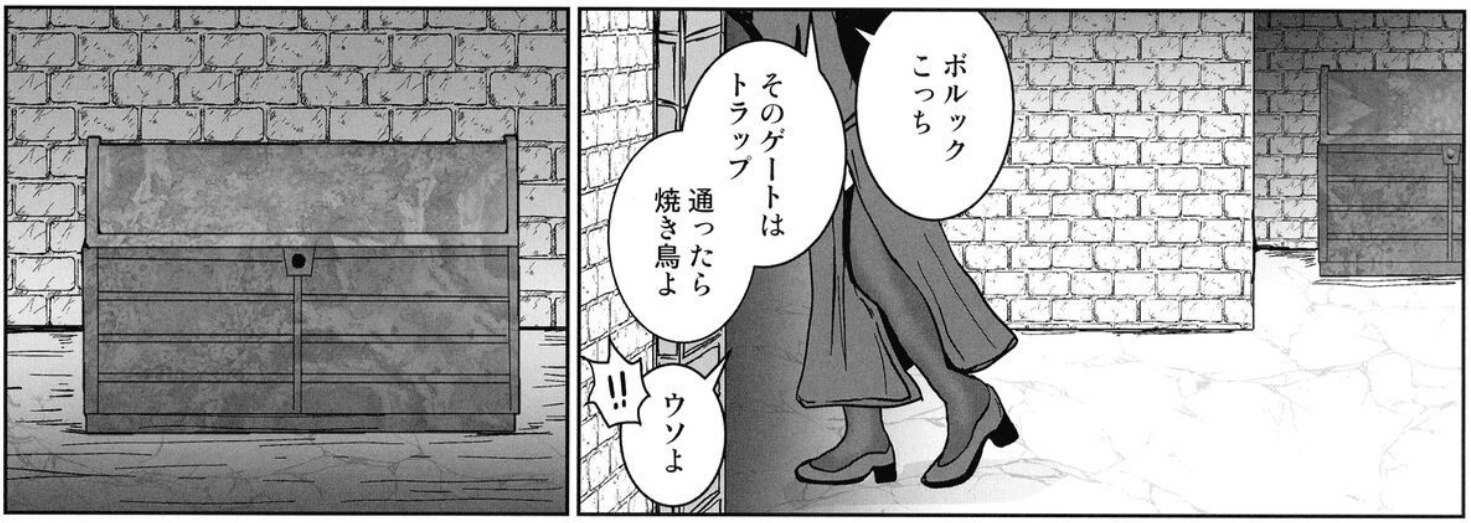
宝箱はまた今度

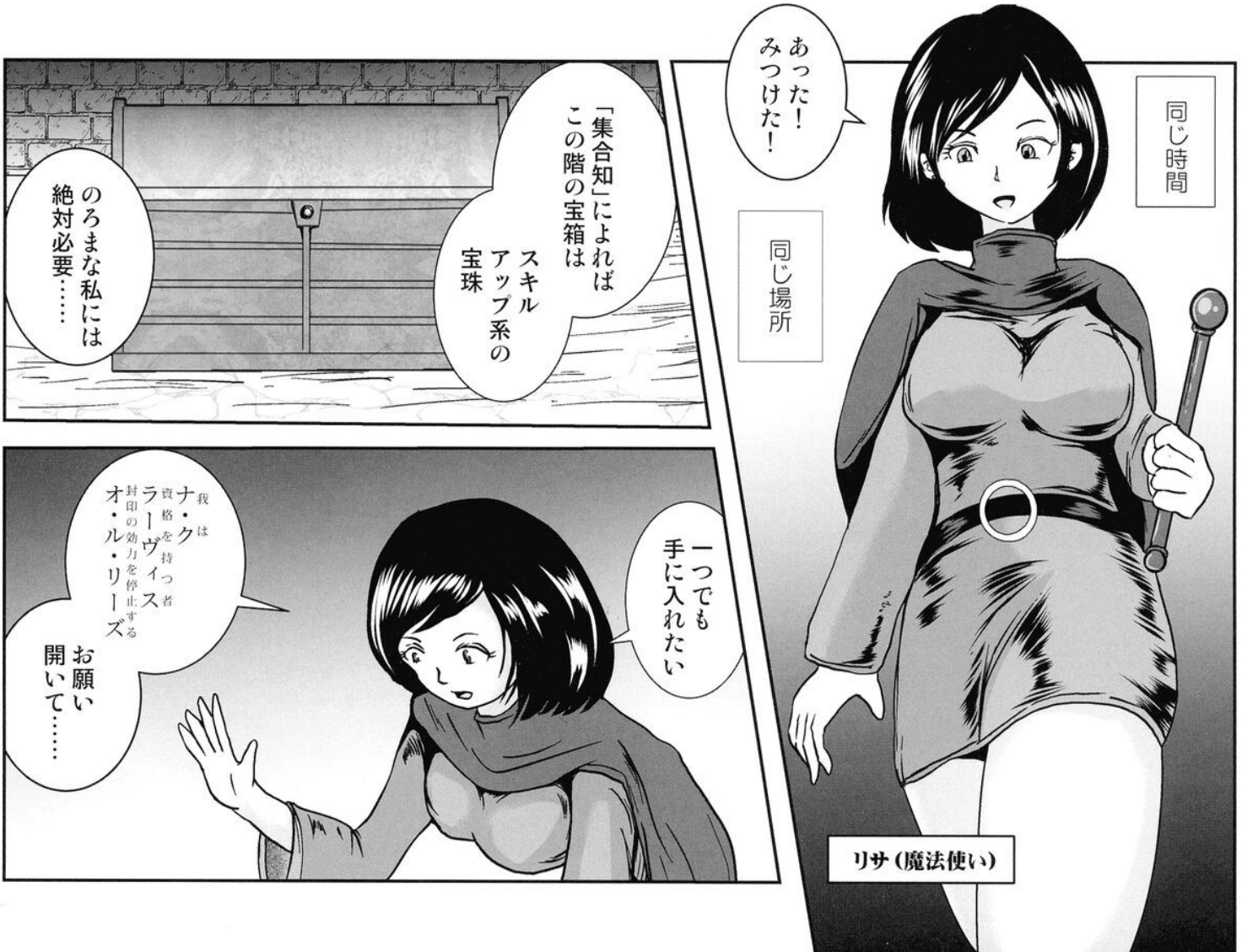
アウラは的確に正しいゲートを選び

上階へと足早に進んでいく

*一般モンスターを魔法で仕留めると、ドロップアイテムごと消えます。


それにしても
いったい今
何人ぐらい
この塔に
いるんだろう


ボルック
こっち
そのゲートは
トラップ
通ったら
焼き鳥よ
!!
ウソよ


同じ時間
同じ場所
あった！
みつけた！
リサ（魔法使い）
「集合知」によれば
この階の宝箱は
スキル
アップ系の
宝珠
のろまな私には
絶対必要……
一つでも
手に入れたい
我は
ナ・ク
資格を持つ者
ラーヴィス
封印の効力を停止する
オ・ル・リーズ
お願い
開いて……


バーン
宝箱は
「ミミック」
だった
細く見える
触手は
ものすごい力で
軽々と女を
引き寄せる
触手の中の
「触根(性器)」は
女の口に
精液を注入する
女の体を
「食える状態」に
する為だ


女はすぐに
膨乳した
乳首からは
母乳が吹き出る
ビュー!!
ビュッ!!
ビュッ
女のカラダが
強烈な快楽を
得ている証拠だ
この女は母乳が
よく出る
よほどこれまで
モンスターに
乳首を
犯されて
いるのだろう
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
女は 快楽で
痙攣しながら
簡単に孕んだ
犯され慣れた女は
マナの質こそは
良くないが
カラダの感度は高い
あっという間に
「食べごろ」だ
ミミックは
自分よりも
大きな獲物を
呑み込んでいく
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ

女は
「情報として」
知っていた
筈だった

「イったら
呑まれる」
そして

ミミックに
呑まれたら
どうなるか
……

ぶるっ
ぶるんっ
ぶん
ぶるっ
ぶるっ
ぶるっ
ぶるっ
ぶるっ

絶望すら
快楽に
変わっているのか

女は更に
何度も絶頂し
ながら

ミミックの中に
呑み込まれて
いった

くちゃっ
くちゃっ
くちゃっ
くちゃっ
くちゃっ
くちゃっ

ハキッ
ハキッ

そう 次元が
ズレてるのよ

多分 いま
この塔には
多くの
冒険者や

アイテム
目当ての
魔法使いが
侵入してるわ

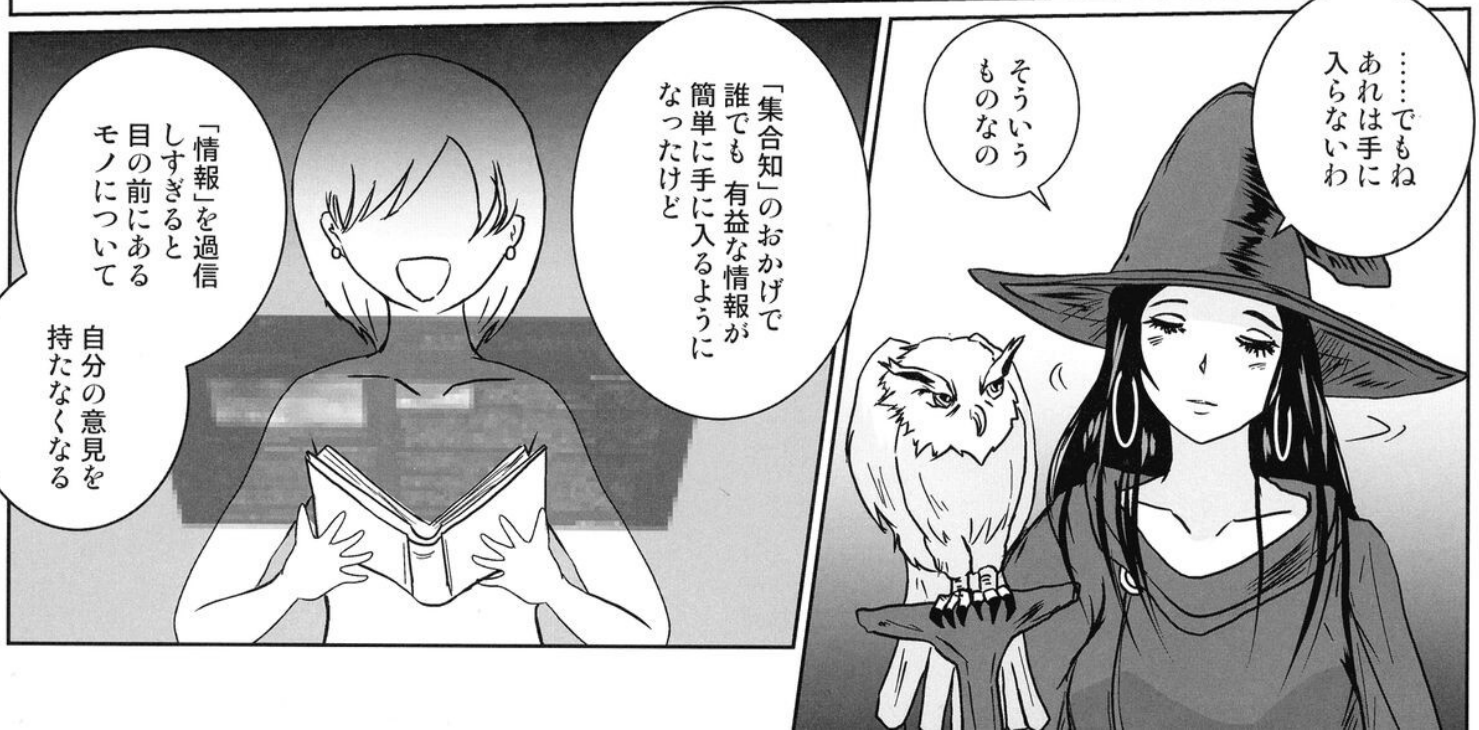
同じ場所で
同じ景色を
見てるけど

侵入者同士が
出会う事はない


そんなに珍しい事じゃないわ
私たちの世界だって
他の世界が並行してるのよ
お隣の世界に気づかないだけ
目の前の世界のことで手一杯だからね


アウラたちは塔の中腹あたりへと進んだ
うわ
露骨(ろこつ)
「オーブ」よ
魔法使い垂涎(すいぜん)のアイテム
宝箱にすら入ってないなんて……


見たところ本物ね
あのオーブを手に入れることができれば
未熟な魔法使いでもかなりハイレベルの魔法が使えるわ


……でもねあれは手に入らないわ
そういうものなの
「集合知」のおかげで誰でも有益な情報が簡単に手に入るようになったけど
「情報」を過信しすぎると目の前にあるモノについて自分の意見を持たなくなる


「大丈夫って
書いてあったから
大丈夫」
「こう書いて
あったから
こういうものだ」
リスクを
背負うのは
自分なのに……


そして
同じ時間
同じ場所
ついに……
みつけた！
伝説の
「オーブ」！
マリナ
（アカデミー学生）
私が一番乗り
なんだ！
「集合知」で
調べまくった
甲斐があった
……!!


彼女の前に
この塔を守る
ガーディアン
「銀の兵士」が
あらわれた
フォン
フォン
ぱかっ

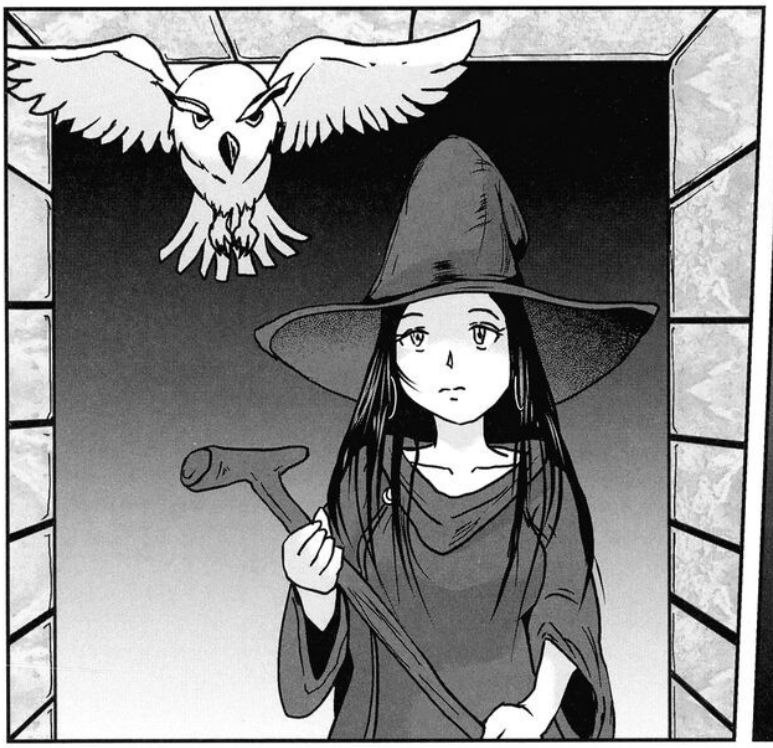

このオーブが
あれば私……
ブゥン

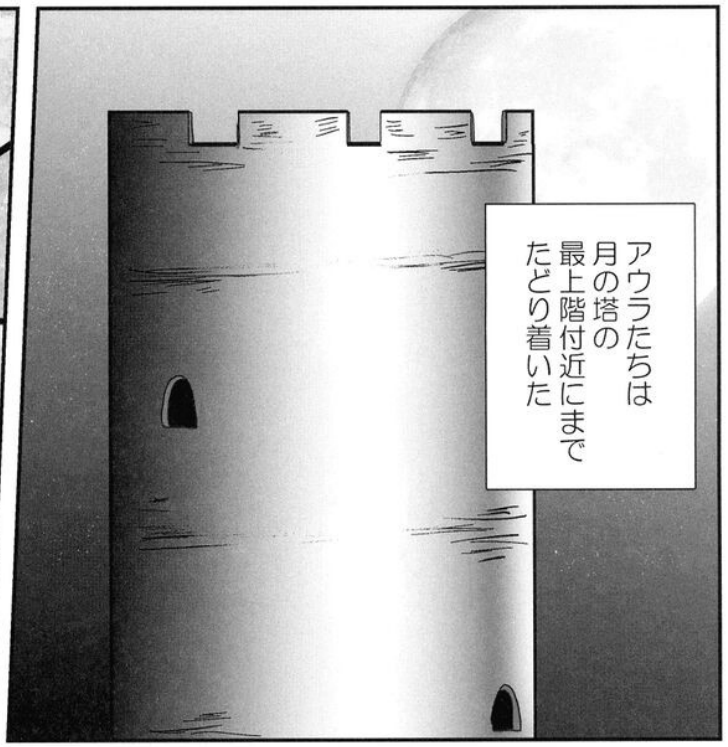

まるで
オーブが
嘲笑(あざわら)っている
みたいだ
「おまえのような
未熟者がここまで
これたことが」
不思議だと
思わなかった
のか?」と…
銀の兵士について
「情報」は
少ないだろう
出会って
生還したものが
ほとんど
いないからだ
女は
あっという間に
孕まされ
母乳は
大量に
溢れ出す

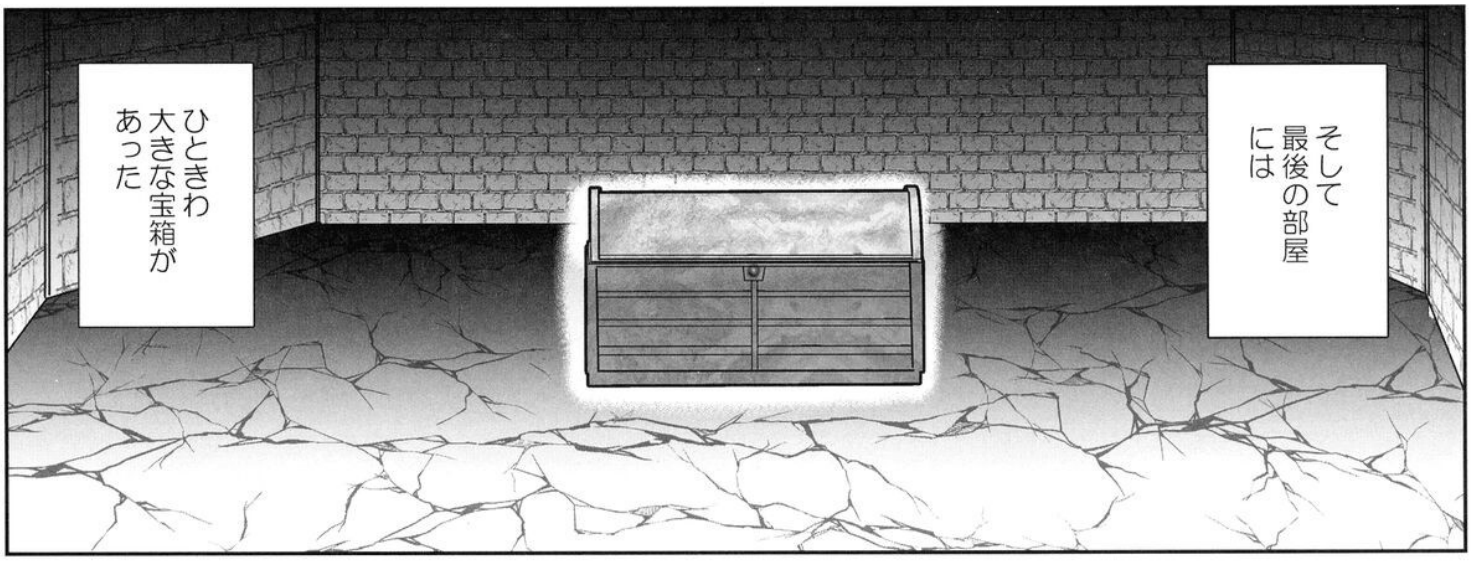

何度も 何度も
イかされ
絶頂に
喘ぐ
ほぉ
おおお
ぉぉっ
あぁっ
ぁぁ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
部屋の隅では
一匹のミミックが
口を開けて
待っていた
ニュル
ニュル
ガーガー
ガーガー
ぁっ


銀の兵士は
快楽で
痙攣する女を
ミミックに
ほおりこんだ
まって……
まって……
イ…イく!!
おっ


ドキッ
ドキッ
ドキッ




アウラたちは
月の塔の
最上階付近にまで
たどり着いた

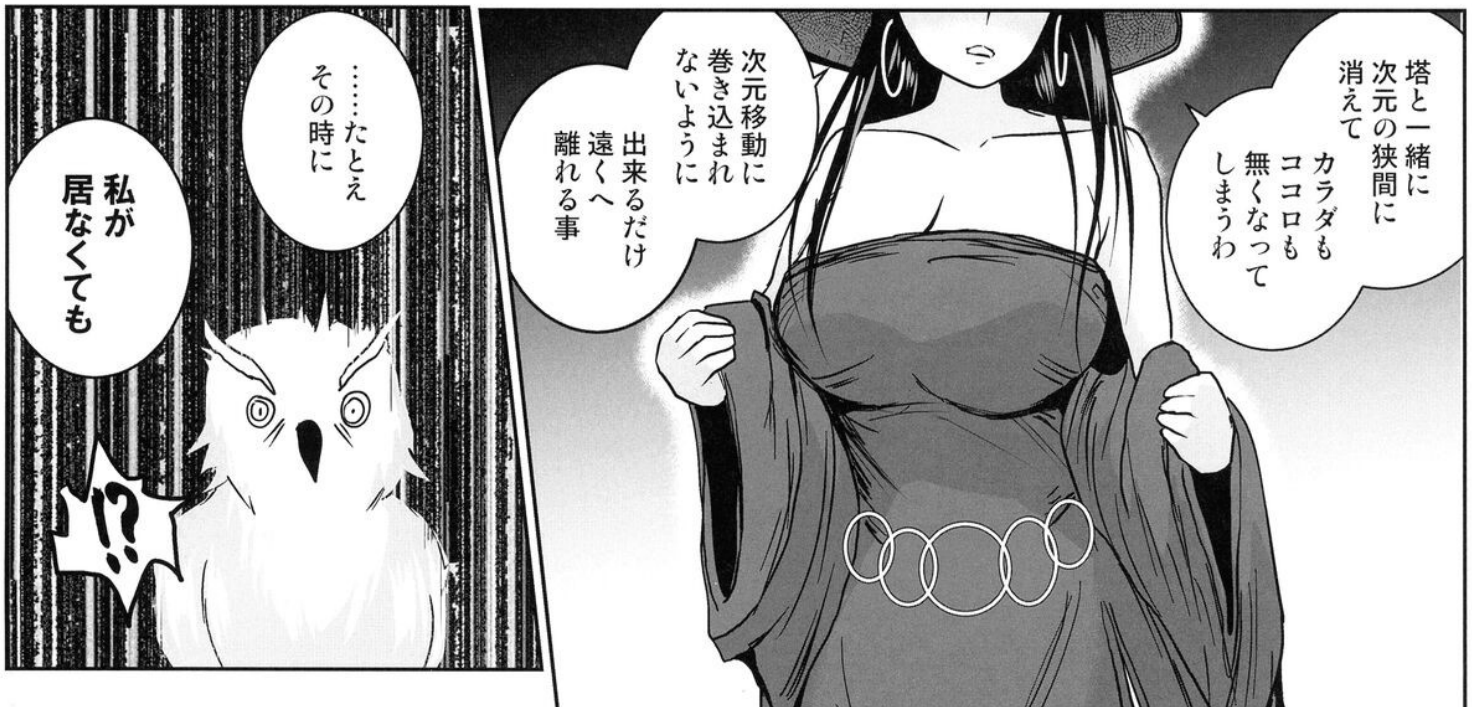

そして
最後の部屋
には
ひときわ
大きな宝箱が
あった


この部屋で
行き止まり
……？
立ってて
スタン
この上　屋上に
行くゲートが
ある筈だけど……
隠されてる
みたいね
それも
随分と
念入りに
ビニッ
……ゆがみが
出始めている
屋上に上がる
ゲートを
探している暇は
無さそうね
ボルック
ここで
二手(ふたて)に別れます


この塔に来た目的は
「上位宝珠（アルダーストーン）」を
手に入れる事です
恐らく
この塔の屋上で
月の光を
浴びています
ボルック
あなたにその石を
とって来てほしいの
大丈夫
難しい事は
ないわ

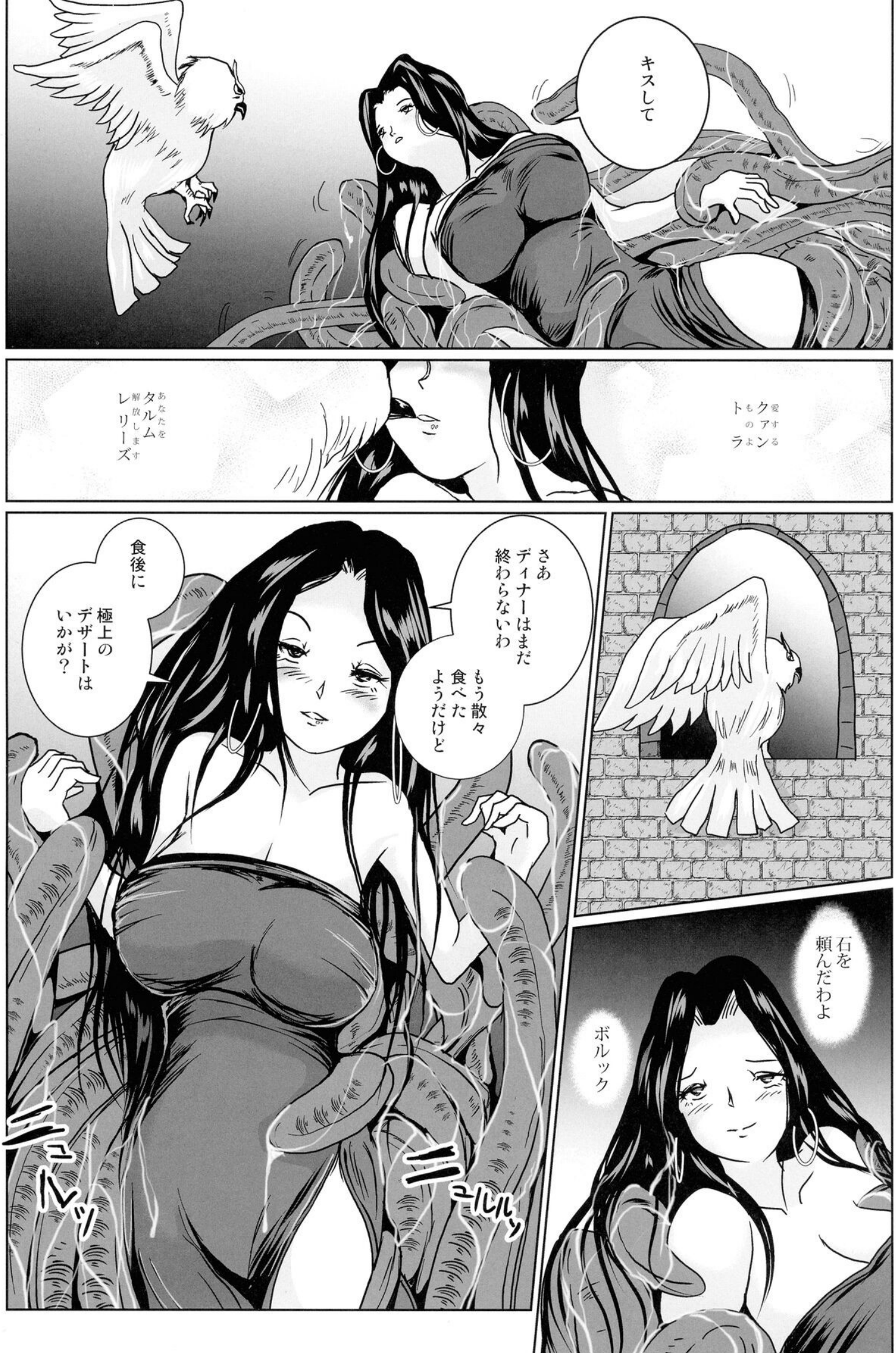

でもね
もう時間が
あまりないの
だから私は
あなたが石を
見つけられるように
時間を
稼ぎます
……


それとね
もしこの塔が
消えかかったら
あなたは
すぐに塔から
離れる事
今夜は嫌な
予感しかしない
アウラは
何をする気
なのだろう


塔と一緒に
次元の狭間に
消えて
カラダも
ココロも
無くなって
しまうわ
次元移動に
巻き込まれ
ないように
出来るだけ
遠くへ
離れる事
……たとえ
その時に
私が
居なくても
!?


ボルックは猛抗議した
ギャア
ギャア
ギャア
アウラは何か危険な事をしようとしている
落ち着いて
大丈夫よ私が冒険でヘマしたことある？
そこそこある!!
その石は
「ムーンストーン」
使える条件がそろったかもしれないの
私たちのこの世界を
「ラーバタス」を
救え……
!!


グッ
グッ
ぐー
ぐぐぐ
いいの！
上へ行って！
ボルック！
早く!!
グッ!!
ガッ!!
ガッ!!
キャアアアア!!
キャアアアア
時間が無いの！
お願いボルック！
私は
大丈夫！
んっ
んっ
……
いい子ね
石をお願いね
ニュルッ
あ
そうだ
ねぇ
ボルック
もうひとつ
お願い
ニュルッ


キスして
愛するクアントラよ
あなたをタルム解放しますレリーズ
石を頼んだわよ
ボルック
さあディナーはまだ終わらないわ
もう散々食べたようだけど
食後に極上のデザートはいかが？
ニュルッ
ニュルルッ


ボルックは
焦っていた
一刻も早く
石を手に入れて
こんな場所から
アウラと脱出
しなくては
屋上にはアウラの
言った通りに
「貴重な石」らしき
ものが……なんと
たくさんある！
しかも原石の
ままだ!?
どれが
正解なんだ？
真ん中のは
宝珠じゃない
増幅装置（ブースター）だ
アウラの研究室
にもある
どれだ？
どれでも
いいのか？
いや……
これだけ
明るい光に
照らされてるのに
「影が無い石」
が一つある
あれだ
間違いない
ボルックは
石にめがけて
急降下する


銀の兵士が
あらわれた
フォン
フォン
フォン
ブーン
バサッ
バサッ


バサ
バサ
バッ
!!


同じ時間
最後の部屋
あっ
はぁっ

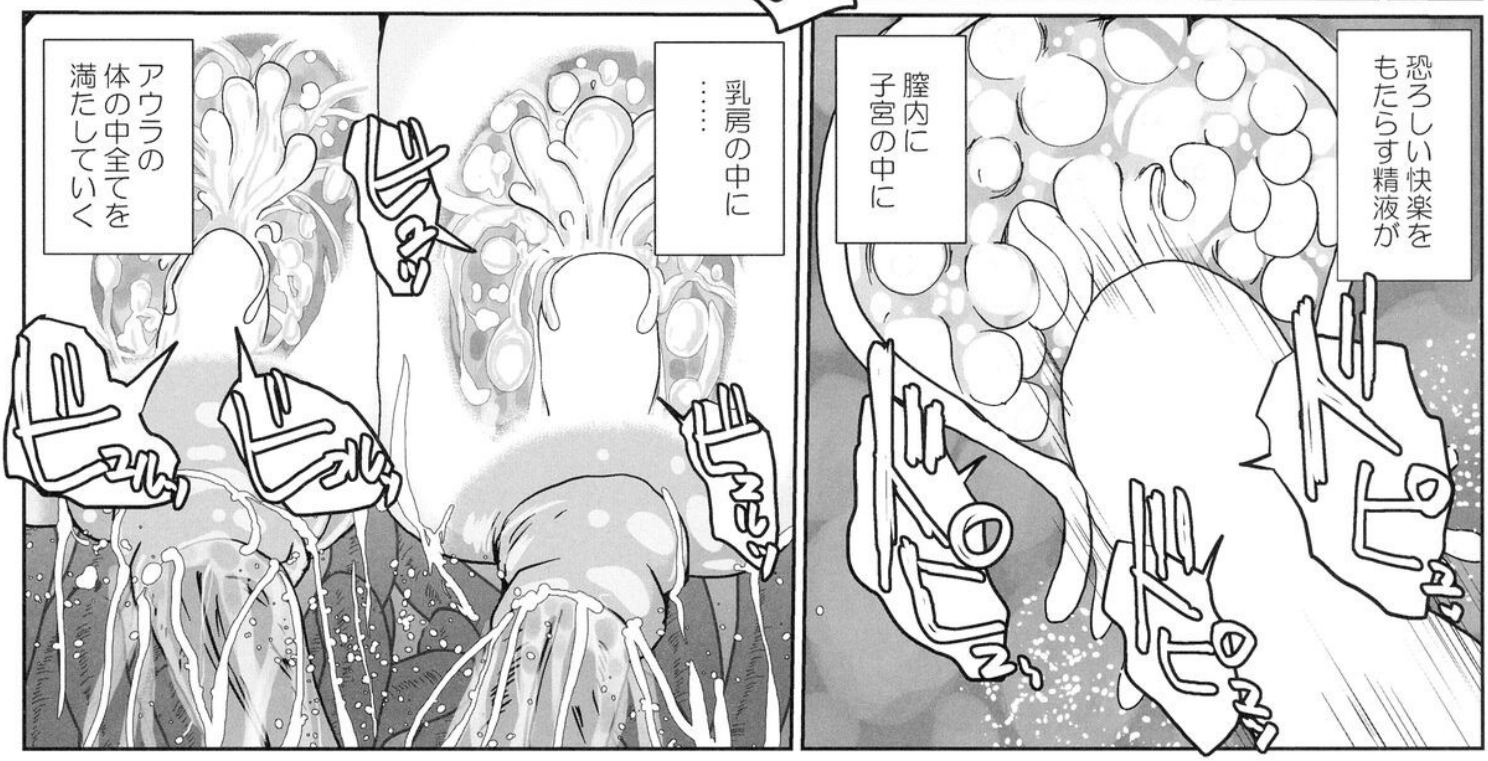

んっ
んっ
んっ
くちゅっ
くちゅっ
くちゅっ
くちゅっ


すごい
予想以上の
刺激……
んっ
んっ
ビクン
これは……
持たない……
……かも……
ビュルッ
ビュルルッ
ビクン


「時間を稼ぐ」
アウラは自分が犯されている間は
塔が消えない事が解っていた
しかし自分が絶頂を繰り返し
ミミックに呑み込まれ意識を失い
「食事」が終わってしまえば塔は消えてしまうだろう


おぐぢゅ
おぐぢゅ
おぐぢゅ


イったら
食われる
食われたら
塔が消える
ボルックの為に
時間稼ぎをする
アウラだが
ミミックの
強烈な刺激は
予想をはるかに
超えていた
ズボ
ズボ
ズボ
ズボ
おぉ
おぉ

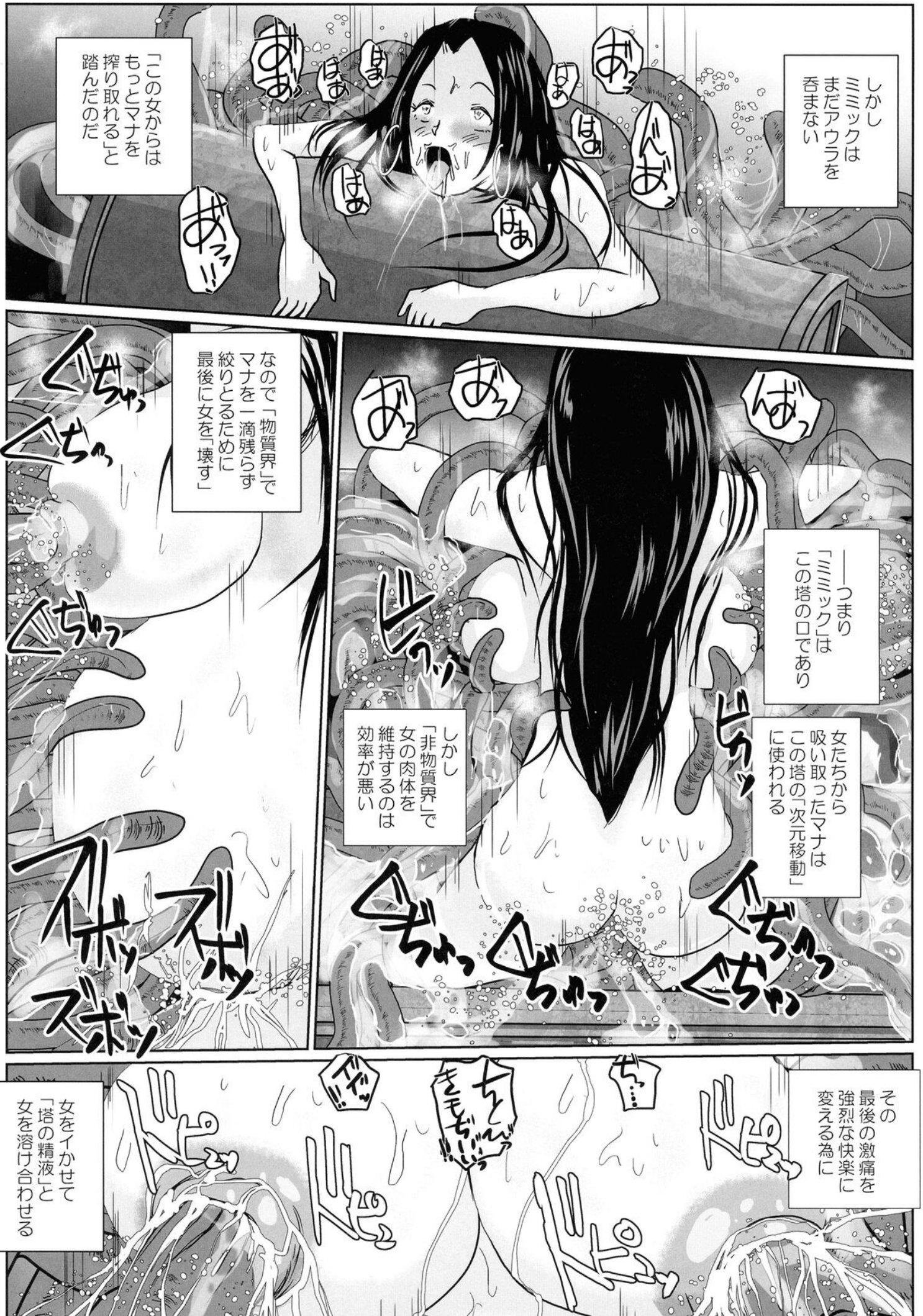

恐ろしい快楽を
もたらす精液が
膣内に
子宮の中に
ドピュ
ドピュ
ドピュ
乳房の中に
……
アウラの
体の中全てを
満たしていく
ビュル
ビュル
ビュル


だめっ……
孕まされたら
イきやすく
なっちゃう
あっ!!
孕む!!
ブッ
ブッ
ブッ
孕む!!
ダメ……
ダメ……
孕まされたら……
ミミックは
容赦なく
アウラを孕ませた
イッ……!!
ボコォ
お願い
ボルック
石を
早く……
石を


最上階に配置された銀の兵士は
ボッ
ボッ
ボッ
対空用の攻撃手段が組み込まれていた
ボルックは必死に交わすとても石に近づけない
ボッ
ボッ
ボッ
早くしないとアウラが危ない気ばかり焦る
しかし事態はどんどん悪化していく
ブウン
ブウン
銀の兵士の数が増えて行くのだ
攻撃は激しさを増す
ボッ
ボッ
ボッ
それでもボルックは石を諦めない
……がついに火の玉が
ゴッ!!
ボルックに直撃してしまった
ボッ
ボッ
ボッ
ボッ
ボッ


モンスターに
孕まされると
快楽刺激が
跳ね上がる


膣内と子宮を
かきむしられ
乳首の中を
激しく擦られる
アウラは
執拗な刺激に
犯され続け
アウラは
ついに
連続で
イき始めた


しかし
ミミックは
まだアウラを
呑まない
「この女からは
もっとマナを
搾り取れる」と
踏んだのだ
なので「物質界」で
マナを一滴残らず
絞りとるために
最後に女を「壊す」
——つまり
「ミミック」は
この塔の口であり
女たちから
吸い取ったマナは
この塔の「次元移動」
に使われる
しかし
「非物質界」で
女の肉体を
維持するのは
効率が悪い
その
最後の激痛を
強烈な快楽に
変える為に
女をイかせて
「塔の精液」と
女を溶け合わせる


「この女のマナは
実に質がいい
最後の獲物に
ふさわしい」
ダメ……
こんなの
……
はじ……
……めて
……
イかせられ続け
「塔の精液」を受容
したアウラの体は
パンパンに膨らみ
「最後の時」を
甘受する
準備が完了する
「食べごろ」だ


ミミックの
蓋が閉まっていく
蓋は完全に閉まりアウラは呑み込まれた
箱の中では絶頂が止まらなくなり失神寸前のアウラがなおもイき続け体も心も服従した濃厚なマナを体中から吹き出す
ミミックはアウラの体に触手を巻き付け「絞る」準備をする
「さあ 最後にもう一絞りこの女の」
「肥沃で芳醇なマナを頂くとしよう」


ごめん
ボルック
石を……
お願い……
ズッ
ズッ
ズッ


塔が消えるわ！
外へ!!
ゴゴゴ
ばっ
ブゥーン
とんがり帽子は
伊達じゃないの
石を手に入れアウラを助け出したボルックは
ありがとう
ボルック
研究室の裏庭に降り……

「どうして
こんな危ない
ことをした!!」

「もし食われて
しまっていたら
どうするんだ!?」

ボルックは
大きな体で
アウラに
文句を言った

アウラは
孕まされたまま
膨乳したまま
の体で
何度も謝る

……

満面の笑みを
湛えながら

ゴォッ!!と
吠えて

ボルックは
アウラに
襲いかかった







物質と非物質の
狭間にあるという
「ムーンストーン」

まだ「若い」この石を
アウラは何故
そんなにも欲しがったのか

ボルックには
解らなかったが

詮索する気も
無かった

END

ATOGAKI



高石ふう

【あとがき】

高石です。お楽しみいただけましたか。アウラさん危なかったです。ボルックが、頑張りました。塔と一緒に吸い込まれてしまったら、アウラさんの本をもう描けなくなるところでした。ありがとうボルック。

また今回の丸呑みは、いままでよりデンジャーなヤツでした。くだんの塔は多分、ラーバタスの外の世界のかけらです。外の世界を見ると、いかに、ラーバタスという世界が異種姦エデンなのかよく解りますね。ね。

で、設定ですよね。何がどうでどういうことなんだって話ですよね。このあと数時間後に印刷所さんの締め切りでして、設定ページを作る時間と高石のHPがほとんど残っていません。やくそうも使い切ってしまったので、下のスペースに書けるだけ記述します。小さい文字ですみません。スマホの方は拡大を、同士初老ズはハズキルーペをご利用ください。それではまた次回のお話で！来年は平和な年になりますように　2022/12　高石ふう

【月の塔】

「さまよい塔（RoverTower）」の一つ。物質界から他のプレーンに移動するので、ほぼ伝説上の存在。実際に見たことあるモノはよほどの魔法オタクだけである。上位宝珠や、初めて見るアイテムが見つかることから、異世界の大魔法使いが作った物ではないかと言われている。

【とんがり帽子の魔法使い】

近代魔法（GEM Sorcery）が普及するはるか昔、魔法使いは精霊たちとの契約によって魔法を行使していた。魔法の習得には膨大な時間と学びが必要であり、精霊が女性体であることから（＝諸説あり）男性魔法使いが圧倒的に優位を占めていた。

しかし歴史の中には稀に、「とてつもなく強力な女魔法使い」が出現する。そして、彼女たちは例外なく、強力なモンスターを従えており、お互いに強い絆で結ばれていたという。当時の彼女たちが身に着けていたのが「とんがり帽子」である。

魔力で勝てず、面白くない男の魔法使いは、「彼女たちの魔力はモンスターと交わって得たものだ」と吹聴し、どの時代でも稀代の女魔法使いは国中からうとまれ、追いやられた。現代、とんがり帽子は「モンスターと好んで交わる女」のレッテル張りがされているが、アウラはそれをあえて身に着けている。一部のものは依然としてとんがり帽子を揶揄するが、アウラの人気も相まって、多くの人は気にしていない。

【アルダーストーン / 上位宝珠】

モンスタードロップなどで手に入れられる宝珠とは違い、かなりレアで強力なアイテム……の筈なのだが、使い方も解らない、使える者も居ないので、今や富豪のコレクションとしてのアイテムとなっている。歴史や伝承にはよく登場するが、その伝承も近年の冒険者ブームで随分都合よく書き換えられているので、どこまで本当か解ったものではない。

アンバーも一般的には滅多にお目にかかれないアルダーストーンだが、常連の皆々様にとってはそれほど珍しくないかもしれない。

【ムーンストーン】

伝承上に出てくるアルダーストーンのひとつ。次元制御の力を持つと考えられている。本編では、塔の上にあり、月光を蓄えていた。当然、食われた女たちのマナも吸収していると考えられる。

【ミミック】

本編のミミックは、この塔の「口」として機能している。女のマナを吸収し、塔の維持力にしている。強力な触手は人間の体など簡単に壊す。ラーバタスの世界では、モンスターも人間もLOSTすると灰になって消えるので、色々都合がよいのだろう。

【宝箱】

月の塔にある宝箱の開錠は、すべてアンロックスペル（魔法）で行う。スペルは膨大な種類があるが、この適合スペルも「集合知」の攻略ページに乗っているようで、多くの侵入者が宝箱を難なく開錠し、貴重なアイテムを手に入れている。そしてそれをまた「集合知」で自慢するので、月の塔としては獲物が入れ食い状態な訳である。ただ、昔は高レベル魔法使いしか来なかったのに、最近は「マナの質が低い」獲物が多いようで、数をこなすしかなくなっているようだ。

【銀の兵士】

塔のガーディアン。明らかに、ラーバタスの世界のものではない。これは塔の「手」である。侵入者を適度に追い返し、適度に侵入させる。食らう者、アイテムを奪っても見逃す者などは塔が判断しているようだが、判断基準は不明。塔内の並列空間を通じて全部で１３体いるらしい。

【塔内の並列界構造】

同じ場所、同じ時間で、違うレイヤーに人間がいる。皆様の言葉を使えば四次元。これは物質界の時間軸進行に対して最も効率よくマナを採取できるシステムである。これは、ラーバタスの世界（物質界）においては再現が不可能。理論化は難しいが、そういうものだと思ってしまえば、それほど難しくはない。探究心は大事だが、不安定なものを不安定なまま抱える事にも慣れるべきだ。

【次元移動】

異世界への移動は、基本的に肉体を保ったまま行うとは出来ない（出来ても、その維持にものすごいエネルギーが必要）。皆様が来訪の際、そちらの世界での体を直接こちらに持ってくることは出来ないので、精神的存在でこちらにおいで頂いているのと同じ。

【巨大化するボルック】

モンスターが女魔法使いの為に戦うとなれば、上位宝珠の力であると考えるのが常識だろう。それが拾ったムーンストーンの力なのか……？また、アウラは塔をひょいひょいと進めたのも、このような場所が初めてではなかった可能性がある。このあたりは、物語が進むことで、いずれ明らかになるだろう。

【奥付】

・誌名：「さまよえる塔の丸呑ミミック」　・初版：2022年12月31日（C101）　・印刷：株式会社 栄光

・著者：高石ふう（support@larvaturs.skr.jp）/ Twitter：@lavatakoubou　・サークル名：らばた工房（EroticFantasy ラーバタス）　http://www.larvaturs.info